



寄付のチカラ

～わたしの願いとその物語・東北へ東北から～

共感大賞

竹俣 正之さん



感動大賞

特定非営利活動法人
こども∞感ぱにー

情熱大賞

一般社団法人
かもみ～る

主 催：公益財団法人 地域創造基金さなぶり

共 催：一般財団法人 青い森地域創造基金 / 認定特定非営利活動法人 あきたスキッチファンド /
認定特定非営利活動法人 きたかみ市民活動基金

後 援：山形県 / 宮城県

寄付者部門 共感大賞

竹俣 正之さん

● どんな活動のご寄付でしたか？

ランニングを通して東日本大震災で親を亡くした子どもを支援する「走る貯金」。仕組みは、日頃のトレーニングで走った分（例えば1km×10円、単価は自由）をペットボトルなどに貯めて、満期日（毎年5月開催）にみんなで持ち寄り、当日の募金を含め全額を寄付。来年は5回目になる。

● 寄付をした理由はどんなものですか？

あしなが育英会が震災遺児の心のケア施設「レインボーハウス」を建設するのに賛同し、その資金の一部として「走る貯金」を立ち上げた。知り合いのランナーに呼びかけ支援の輪を広げていった。建物は2013年春に完成し、子どもたちが元気に明るく伸び伸びと遊ぶ姿を同会の機関紙などで見て、少しでも役に立ったかと思うとうれしくなった。その後、建設資金の募金は打ち切られたため、寄付先を仙台市の「絆・寄付」に変更した。

私は走る楽しみを覚えてから20数年になる。大震災の3年ほど前に足を痛めて休んでいた。震災をきっかけにして私なりのボランティアが出来れば、と思い再び走り始めた。古希を目前にして体力はすっかり衰え、3年連続して仙台ハーフを完走できず、途中失格になった。それが今年4回目の挑戦でやっとゴールできた。寄付のチカラが自然と走る力につながっていった。マラソンは「競走」

より「共走」とも言われ、自分の楽しみだけでなく、誰かと共に走る喜びがある。貯金が少しずつ貯まっていくのを目になると一層の励みになる。体力が続く限りがんばりたい。

実は私も先の戦争で父親を亡くした戦争遺児だ。母親一人に育てられ、経済的にかなり苦労した。それでもみんなに支えられて、なんとかここまできた。その恩返しの気持ちもある。

● どんな願いをこめましたか？

マラソンは決して楽ではないが、一步一步前に進めば、必ず感動のゴールが待っています。親を亡くし、今は本当に苦しい時期ですが、マラソンと同様に明るい未来はきっと来ます。それを信じて前へ進んで欲しい。私たちはあなたたちを忘れません。

「走る貯金」は組織的な活動ではありません。地道な市民ランナー、一人ひとりの自発的な善意の結晶です。これまでの支援に感謝します。これからも共にがんばっていきましょう。

● 寄付時期 2012年5月から開始し、毎年5月に貯金を持ち寄る

● 寄付先

- ・あしなが育英会（2013年5月まで）
- ・仙台市の「絆・寄付」

● 寄付先区分 特定の組織や活動へ直接ご寄付

寄付の受け手部門 感動大賞 こども∞感ぱにー

● どんな方からの寄付でしたか？ 長野県伊那市立高遠小学校の子ども達

● 活動の対象は？ 子どもを中心とした地域住民の方

● 何人くらいが対象でしたか？ 約150人

● 寄付金受領額・概算 約20万円

● 受領時期 2012／2013／2014年頃

● 寄付金で、どんな活動を行いましたか？

- ・黄金浜ちびっこあそび場（プレーパーク）で使用する大工道具や小刀、ダブルスコップや畠の種の購入。
- ・地域のみんなから「子どもを中心とした地域のみんなで集まれる拠点」が欲しいという声があり、プレハブ購入費の一部として。

●なぜその活動が必要でしたか？

震災後、自由に遊べる場所がなくストレスをためている子ども達が多くいました。がれき置き場になっていた公園を地域の方とプレーパークとして再開しました。子ども達のストレスの発散方法は遊び。自由な発想力や創造力を使って遊べる環境が必要なため様々な工具等を購入しました。

活動地域には子ども達が集まれる室内の施設がなく、子ども達から雨が降っても遊べる場所が欲しいと声があがっていました。最近では、中学生が17時以降からあそび場に集まっており居場所の必要性を感じています。また子育て支援センターも震災の影響で再開しておらず、子育てをしている保護者情報交換の場としても必要性を感じています。

●活動を通じてどのような成果・変化がありましたか？

震災前、代表の田中が住んでいた長野県伊那市にある高遠小学校の教員から2012年春すぐに電話がありました。担任している4年生のクラスで、震災で被害にあった子ども達へ何か出来ることはないかと話し合った結果、みんなで地域に呼びかけ集めたアルミ缶や家にある古本をお金に代え集めたお金があり、その寄付先を探しているという内容でした。

震災後7月から地域住民と子ども達が手作りで整備してきた「黄金浜ちびっこあそび場」では大工道具を使って子ども達が自由に作りたいものを作っていますが、その道具が足りていないこと、また、震災で草木がなかなか生えてこない事を伝えると、高遠の子ども達からメッセージが書かれたナタ5本と切り出しナイフ10本、お花の種があそび場の子ども達に届けられました。あそび場に来る子ども達に高遠町の子どもがどうやってお金を集めたかを伝え、今でもみんなで大切に使わせてもらっています。

2013年夏には、本会が高遠町で開催しているキャンプに高遠小学校の児童約20名が合流し、一緒に川や森で遊び、食事を作り、別れの時には個別に連絡先を交換している姿もあり、楽しい時間を過ごす事ができました。

実は、高遠小学校の児童が自分たちの街に石巻の子ども達が来ると知った時に、どんなことを一緒

にやろうか、どうやったら楽しんでもらえるかを何度も話し合っていたと聞きました。そして、学校行事としての宿泊許可を得るために、校長先生に直談判をしにいき子どもたちの熱意が形になったという背景もあります。

キャンプでお別れの日、高遠小学校の児童から2回目の贈り物でダブルスコップ2本をいただきました。長野県の子どもから宮城県の子ども達に手渡しで送られたものは、心のこもったプレゼントと「人と人との繋がり」でした。

そして、高遠小学校の6年生が卒業の時に、「もう僕達は中学生になりばらばらになってしまうから、あそび場のみんなのためにお金を集めることができなくなる。最後に集めたお金は必要な物を買って下さい。」といって箱いっぱいの小銭を代表田中が高遠を訪れた時に手渡してくれました。この小銭の重さは、子ども達が3年間にわたりコツコツと集めた大切な想いでした。だから簡単には使うことが出来ずに使う機会を待っていました。

今回のプレハブは、寒い冬も風が強い日も外で遊び続けた子ども達が、室内でも過ごせる場所が欲しいと長年望んでいたものです。あそび場の子ども達が長期にわたって安心して過ごす場所となっていくプレハブ費用の一部に、高遠小学校の子ども達から預かっている寄付を使わせてもらう事にしました。

遊ぶ環境が整ったことやプレハブが完成すると子どもや地域住民の交流が増え地域力が高まります。そして、当会が目指している「地域で子どもを育てる」ミッションの達成にも繋がります。しかし、それ以上の成果や変化は同じ年齢の子どもが寄付をしてくれたという経験を石巻の子どもたちができたことだと思います。支援慣れして物を大切にしない時期もありましたが、道具を購入できた経緯などを伝えると大切に使うようになりました。

また、昨年に広島で災害が起きた時は、地域のお祭りで子どもたちが自発的に募金を集めて広島に送りました。同年代の子どもたちに支援してもらった経験があったからできたことだと感じました。周りの大人は子ども達の行動に感動するばかりでした。顔の見える寄付の関係を作っていくことは、双方にとって成長の場になっていくんだなと感じました。

● 寄付者にどのようなことを伝えたいですか？

寄付はお金や物などで頂きますが、私たちはいつも皆さんの想いを受け取って共に活動していると考えています。お金や物を使わせて頂いているときは皆さんのお顔や想いを思い出しています。皆さんの想いが形になった場所をぜひ見に来てください！

<連絡先>

- ・団体名： 特定非営利活動法人 こども∞感ばに一
- ・代表者名： 田中 雅子
- ・電話番号： 090-5902-0307
- ・E-mail： codo.pany@gmail.com
- ・web： <http://codopany.org/>

寄付提案部門 情熱大賞

かもみ～る

● 団体所在地 宮城県気仙沼市

● 寄付希望額 50万円

● 事業目的 気仙沼市内の障がい児・者のために、就労継続支援事業所を開設したい（2016年3月開設予定）。

● 活動の対象は？ 気仙沼市内の障がい者

● 規模感はどれくらいですか？ 定員：20名 / 施設大きさ：100 m²以下

● どのような活動をしますか？

障がい者就労継続支援事業所を開設し、当事業所の就労訓練の作業内容として「季節の手作りジャム」作りを行う予定。また、地域の方々と連携し（大きな企業というより）個人で自営する職場に、実習として障がい者の人たちを一人ずつ、短時間からお願いすることとしている（実習先例：藍工房、食堂、小物雑貨製作所、建具工場等）。障がい者の個性や特徴を理解してもらい、本人の適性と心身の状態を見守りながら就労の支援を行っていきたい。

就労支援の活動内容はその他に、農作業・ガラス工芸作品・手芸・絵画工作等などスケジュールとして組み入れる予定である。生活訓練の活動内容としては自立のための調理体験や掃除・洗濯等の習慣化、健康のための運動等を行う予定。

● なぜ、その活動が必要ですか？

震災で障がいを持った人たちが就労していた水産加工工場等が被災し、ほとんどの一般従業員と障がい者が解雇となった。再開しても障がい者の就労の場は無いに等しい。また、既存する就労支援事業所がそのためか満員状態となっている。

● 現在の地域の状況はどのようなものですか？

被災した沿岸部は土地を「かさあげ」後、臨海産業地域として再開発を始めたところである。被災した市民の住宅については、災害住宅棟が立ち始めて3か所に移住している（ほとんどはまだ仮設住宅暮らし）。まだまだ気仙沼は、被災市民の生活再建と水産業復興の入口に立ったばかりの状況である。福祉に関しては、市としては震災前の状況に戻すことも難しく、それぞれの自主再建に任せており、そのため就労等支援施設は2か所程新設されたが、まだ不足状態である。これから、支援学校を卒業する人たちの進路も困難となっている。

● 寄付を検討している方に、何を伝えたいですか？

就労継続支援事業所内作業所の設備費（ジャム作成用銅鍋、用具、ガスコンロ、ガスオーブン）として寄付をお願いしたい。

気仙沼産の季節の果物を無添加で美味しい加工調理して市民や全国の方に届けたい。また、実習先で適合すればそこで的一般就労も可能となるが、障がいが重症な人たちにとって一般就労はとても難しいことである。その人たちが働く生きがいと誰かに喜んで貢えている実感を得るための作業の一つとして、ジャム作りを計画している。ご協力を頂ければ、とてもうれしい。

<連絡先>

- ・団体名： 一般社団法人 かもみ～る
- ・代表者名： 小原 美佐子
- ・電話番号： 0226-28-9968
- ・E-mail： chamomile.info@gmail.com
- ・web：<https://www.facebook.com/knickknackmisaro>